岡山大学医学部附属病院

—— 現状と問題点と将来展望 ——

荒 田 次 郎

岡山大学医学部附属病院は1870年岡山藩医学館大病院として創設されていて、130年の長い歴史を持つ。その間に一万数千名の医師が、また、その他の医療従事者も数多く、この病院から育っていった。中国・四国、近畿地方を中心に全国各地で活躍して医療に貢献している。

新しい時代を迎えて、国立大学の在り方が厳しく問い直されている。その流れの中で、医学部附属病院も新しい時代に相応しい基本理念のもとに、その使命を果たすべく、病院の職員全員が意識改革をして真剣に病院の改革に取り組まねばならないことは至上命令である。高度の機能を持った病院として高い水準の医療を提供し、地域の中核病院として指導的役割を名実ともに自覚し、地域住民に開かれた病院として活動し続ける病院でなければならない。同時に、教育病院として医師およびコメディカル医療従事者の卒前・卒後臨床教育の場として、新しい時代に活躍できる、優れた人材を育成することが大きな使命でもある。さらに、大学病院は、新しい治療・診断技術の開発、病因の解明の行われる場でなくてはならない。このような背景をふまえて、岡山大学医学部附属病院は新しい時代にふさわしい医療環境をめざして再開発を進めている。

岡山大学医学部附属病院の基本理念

「人間的・創造的・効率的な医療環境」において、新しい時代にふさわしい高度で先端的なチーム医療

をめざすというのが再開発のモットーである。人間的とは、患者さんにも医療従事者にも人間的な環境、人間に対する共感と連帯感を基盤とした医療環境を構築しようということで、英語で humane をあてている。Compassionate に近い言葉である。創造的は文字通りの意味であるが、成果のあがる環境という意味をこめて、productive を使った。効率的は efficient で、仕事、物流、消耗品、医薬品など全てが無駄なく効率的に運用されるようにとの願いを込めている。これらをつなぎ合わせて、Humaneness-oriented, productive, and efficient care space として、頭文字をとって HOPE Care Space が当病院の基本標語である。

岡山大学医学部附属病院の現状と問題点

診療体制：現在、卒前教育は臓器別・系統別に組まれているが、診療体制は、なお、内科、外科を初めとしてナンバー科など古くからの体制で診療している。現在、病棟の再開発が進行中で、その計画では病棟は各科の壁を取り払って臓器別・系統別にすることとなっていて、各科の合意ができています。医学部医学科の講座についても、大学院大学化した今日、再編成が討議されている。このような状況にあって、診療体制も、新病棟の第一期工事の完成時、すなわち平成14年度末までには、臓器別・系統別診療体制とすべく検討が進められている。その準備段階として、平成11年度より総合内科外来を開設してナンバー科の壁を取り払って、広く外来患者を受け入れる体制を整えているが、これをさらに発展させた総合診療部が検討されている。

救急医療：現在、当院の救急医療体制は、なお不

十分であるが救急患者の来院は着実に増加している。救急医学講座の初代教授として氏家良人教授が赴任して現在診療体制の確立に尽力している。これを契機に、病院全体のバックアップ体制もさらに充実させて、救急医療の要望に答えていく必要がある。それにより、当院でのローテート方式の卒後臨床研修も充実するはずである。卒後臨床研修が義務化されることを踏まえて、近い将来、大学病院での実りある救急医療の研修が可能となる。

高度先端医療：岡山大学医学部附属病院での高度先端医療は、臓器移植（肺、肝、腎、大腸など）、遺伝子治療、超大量抗癌化学療法（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）、小児先天性心疾患の手術療法、潰瘍性大腸炎の白血球除去療法、種々疾患の遺伝子診断・免疫学的診断・分子生物学的診断など高度な医療が実施され、試みられ、計画されている。2000年7月より形成外科が新設され、マイクロサージェリーの第一人者である光嶋勲教授が赴任して、高度の形成外科的手術はもちろんであるが、各外科領域にとっても大きな力となった。性転換手術にも積極的に取り組んでいる。

チーム医療：臓器移植をはじめとする高度先端医療はもちろんであるが、その他の医療においてもチーム医療は不可欠である。平成10年10月28日当院で行われた生体部分肺移植は、各科の壁を超え、職域の壁を越えて、病院全体の一体感・連帯感を強固なものとするきっかけとなった。この一体感・連帯感は、病院が患者の尊厳を重視し、高度で良質の医療を提供するためには不可欠である。今後に永続的に、この一体感・連帯感を、病院長中心に維持することが重要であろう。

人事交流：従来、看護部長、放射線部技師長、検査部技師長の人事は院内の人材から選ばれるのが通例であった。しかし、他施設での経験のない人がその職につくことにより、知らず知らずのうちに、その部署の活動が停滞することもあるだろう。今後は、当該部署の長が定年退職する機にその人の後任は公募により選考することとし人事の刷新を目指すことになっている。平成12年度には新任の看護部長の公

募を行った。順次ほかの部署もそのような方針で人事の刷新を図る。また、その他の人事についても人事交流を積極的に進める。これが形骸化しないように、改革意識を持続させることが重要であろう。

情報公開：診療情報の公開は、カルテの記載が公開に耐えるものとなることが前提である。研修医が卒後研修を開始した時点から、「誰にでもよくわかるカルテ」を書く修練を徹底させ、全面公開を前提に対処できる体制を整える。もちろん、このことを踏まえ、卒前実習でもカルテの記載については厳しく教育することは必要である。現在は病院の規定にしたがって、情報公開について患者さんの要望にこたえている。

システムとしての危機管理（リスクマネジメント）の確立：医療における事故防止対策および災害（内部と外部）時対策は、患者および地域住民に奉仕する立場にある大学病院として真剣に取り組む、これをシステムとして確立しなければならない。リスクマネージャー委員会が設けられていて、事故防止に取り組んでいる。国立大学附属病院長会議でも小委員会で討議が進んでいて、近く答申が出る予定となっている。それらをふまえてさらに充実した危機管理体制を整える。しかし、何よりも個々の医療従事者の自覚が大切で、「最悪の事態を予測し、最善を祈る」を基本姿勢とし、「まさかの時も確認を！」を職員の心がまえとして徹底させることにしている。

情報化社会における大学病院：院内における画像の転送を段階的に整備し、外来患者、救急患者、入院患者の診療の能率化を図る。特に、画像診断の必要な外来患者の診療の効率化により、駐車場の効率的回転に寄与させる。岡山県の情報ハイウェイに参加して、地域医療機関との情報交換を密にして、地域医療機関の支援を行うとともに、慢性期に入った患者の地域医療機関での継続医療にも役立てることのできる体制を構築する。また、電子カルテの実現を視野に入れた検討が始まっている。

病院経営の合理化：在院日数、経費率、病床稼働率、院外処方率、査定率などについては、目標値の達成に努力している。さらに、院内の物流を合理化

し、衛生材料、X線フィルム、治療用消耗材料、特定保険医療材料などの出納を正確に把握できる物流システムを完成させる必要にせまられている。

病院の管理運営：現在、岡山大学医学部附属病院は、病院長、学長発令の病院長補佐2名、一元化した事務部、病院運営委員会、医局長会、病棟医長会、外来医長会により運営されている。さらに、事務部、看護部、薬剤部と病院長との打ち合わせ会、病院長と三総医長との懇談会、病院長とコメディカルスタッフとの懇談会などを通じ院内の意思統一をはかりながら病院運営を行っている。しかし、基本的な重要事項について一貫性のある継続的管理運営と病院の方針が広く病院全体に行き渡るシステムが、人事交代、移動により、頓挫することのないような運用方を構築する必要がある。

臨床医学教育：医学部附属病院は、医学科、保健学科の卒前・卒後の臨床教育の場である。クリニカルクラークシップを取り入れた卒前教育、ローテート方式による卒後臨床研修は現在試行中であるが、できるだけ早い完全実施がのぞまれる。卒前教育については、臨床教授、臨床助教授、臨床講師の制度が確立し関連病院の御協力により学外での臨床修練が実現していて、学生にとって有意義な臨床経験となっている。

三朝分院：教育・研究部門は大学院の大講座制に組み込まれ、三朝分院は廃止改組されて、長寿医学の対応診療科に発展的解消される方向で検討が進んでいる。

最後に、病院外来受付ロビーには次の3つが掲示されていることを記してこの稿を終わる。

患者さんに守っていただくこと

1. 身体的・精神的状態について必要と思われることは、できるだけ正確に、詳しくお教えください。
2. ご自身の受けられる医療行為については、十分な説明を受けた後、納得の上、その医療行為を、「受ける」あるいは「受けない」を選択してください。
3. 身体的不調を感じた時は、即座にお知らせくだ

さい。

4. 病院内では、礼節を守り、他の患者さんに対する思いやりを忘れないでください。
5. 病院の器物は大切に扱ってください。
6. 病院内では、禁酒・禁煙を守ってください。
7. 医療費はきちんと支払ってください。
8. 当病院は教育病院であることをご理解ください。

患者さんの権利

1. 患者さんは、十分な説明を受けた後、医療・看護を、「受ける」、あるいは、「受けない」、という選択をする権利があります。
2. 患者さんは、自身の診療情報および個人情報保護される権利があります。
3. 患者さんは、いかなる状態においても人間の尊厳を尊重されてその生を全うする権利があります。
4. 患者さんは、いかなる差別もなく平等な医療・看護を受ける権利があります。
5. 患者さんは、自ら受けている診療について、当病院の規則に従った方法により、情報の提供を受ける権利があります。
6. 患者さんは、医療費の明細、医療費の公的援助について、情報を受ける権利があります。

病院の基本理念

一人間的・創造的・効率的医療環境

全ての職員が国立大学医学部附属病院医療従事者としての誇りと自覚を持って互いに連帯し、人間の尊厳を忘れることなく、公平に、いかなる差別もなく、時代の先端を行く最高の医療を提供するとともに、日々の研鑽を通じて創造的医療人の育成に努力する

1. 人間的医療環境
 - 全ての職員が厳しい倫理観を持つ
 - 病者の尊厳を思う
 - 病者への共感を忘れない
 - 公平な医療を心がける
 - 十分な説明のうえ納得感のある診療に努める
 - 温かい人間関係・連帯感の中で仕事に精励する

- 仕事に情熱と喜びを見出す
2. 高度先端的医療の提供・開発
 - 新しい医療の開発に努める
 - 最高水準の医療を提供する
 - 先端的医療を実践する
 - 地域の中核である大学病院としての自覚を忘れない
 3. 効率的医療環境
 - 効率的医療の提供を目指す
 - 緊密かつ能率的チーム医療を実践する
- 無駄のない病院管理を行い国民からの納得を得る
 - 地域医療機関との連携を密にして、病者の生活の質を向上させる
4. 創造的医療人の育成
 - 豊かな人間性を練磨する
 - 先見性を持った人材を育てる
 - 充実した卒前・卒後臨床教育を行う
 - 持続的自己研鑽に努める

平成13年度外来診療医日割表

(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

科名	曜日	月	火	水	木	金
総合内科外来		新来患者のみ	新来患者のみ	新来患者のみ	新来患者のみ	新来患者のみ
第一内科				教授 助教授 講師		教授 助教授 講師
第二内科			教授 助教授 講師		教授 助教授 講師	
第三内科		教授 助教授 講師		教授 助教授 講師		
循環器内科		教授 講師			教授 講師	
精神科神経科		助教授 講師	教授	講師	教授 講師	助教授
小児科		助教授	教授 講師	助教授	講師	教授 講師
第一外科		教授 講師		助教授 講師		教授 助教授
第二外科			教授 助教授 講師		教授 講師	講師
心臓血管外科			教授 講師		講師	講師
整形外科		教授 講師	助教授 講師		教授 講師	午後専門外来
皮膚科		教授 講師	講師	教授	助教授	講師
泌尿器科		教授 講師	専門外来	助教授 講師	専門外来	教授 助教授 講師
眼科		専門外来 (予約のみ)	教授 助教授	専門外来 (予約のみ)	教授 講師	午後(予約) 専門外来
耳鼻咽喉科		予約再来患者のみ	講師	教授 講師	予約再来患者のみ	講師
形成外科				教授		助手
放射線科	診断	助教授	教授	講師	助教授	講師
	治療	教授	講師	講師	講師	教授
産科婦人科		教授 助教授	講師	予約再来患者のみ	教授 助教授	予約再来患者のみ
麻酔科蘇生科		教授 講師	助教授 講師	講師	助教授 講師	助教授 講師
脳神経外科		教授 講師	専門外来 (予約のみ)	助教授 講師	専門外来 (予約のみ)	教授 助教授
神経内科		新来患者のみ	教授 助教授	(総合内科外来で診察)	教授 助教授	新来患者のみ
小児神経科		教授	講師	助教授	教授	助教授 講師

◎総合内科外来の担当医師は、原則として、その曜日の担当内科の医師があたります。

◎診療受付時間
 新来患者：午前8時30分から午前11時まで
 再来患者：午前8時30分から午前11時まで
 午後の診療：午後1時から午後2時まで

◎休診日（土曜日・日曜日・祝日）
 年末年始：12月29日～1月3日

〒700-8558 岡山市鹿田町二丁目5番1号

代表電話 (086) 223-7151

岡山大学医学部附属病院

曜日別診療領域

科名	曜日	月	火	水	木	金
第一内科	午前			一般内科 消化器病（食道・胃・腸・肝・胆・膵）・心臓病・高血圧・糖尿病・感染症・アレルギー 肝炎キャリア外来		一般内科 消化器病（食道・胃・腸・肝・胆・膵）・心臓病・高血圧・糖尿病・感染症・アレルギー 肝炎キャリア外来
	午後					
第二内科	午前		一般内科 血液・腫瘍 呼吸器・アレルギー 消化器・成人病		一般内科 血液・腫瘍 呼吸器・アレルギー 消化器・成人病	
	午後					
第三内科	午前	一般内科 糖尿病・高脂血症 腎疾患 リウマチ・膠原病 高血圧・動脈硬化 内分泌・甲状腺疾患		一般内科 糖尿病・高脂血症 腎疾患・腎不全 リウマチ・膠原病 内分泌・高血圧 甲状腺疾患 骨粗鬆症		
	午後					
循環器内科	午前	循環器一般			循環器一般 虚血・不整脈	
	午後	心不全・不整脈				
精神科神経科	午前	一般外来	一般外来	一般外来 リズムセンター	一般外来	一般外来
	午後	家族療法外来（予約）		もの忘れ外来	思春期外来（予約）	リエゾン外来
小児科	午前	一般外来 血液・腫瘍・腎臓 内分泌・乳児健診 未熟児・免疫 アレルギー	一般外来 内分泌・骨・腎臓 遺伝・代謝	一般外来 内分泌・骨・腎臓 血液・腫瘍 予防接種	一般外来 循環器・肥満 内分泌・糖尿病 遺伝・代謝	一般外来 未熟児・乳児健診 内分泌・骨・肥満 糖尿病・夜尿・心療 循環器
	午後					
第一外科	午前	一般外科 小児外科 移植外科（肝） 臓器別専門（食道、胃、肝・胆・膵、大腸・肛門、呼吸器）		一般外科 小児外科 移植外科（肝・腎） 臓器別専門（食道、肝・胆・膵、大腸・肛門、肺（遺伝子治療）		一般外科 臓器別専門（胃・肝・胆・膵、大腸、乳腺・内分泌）
	午後					
第二外科	午前		一般外科 呼吸器・消化器 肝・胆・膵・食道 甲状腺・乳腺		一般外科 呼吸器・消化器（胃・大腸） 甲状腺・乳腺	一般外科 呼吸器・消化器 甲状腺・乳腺
	午後					
心臓血管外科	午前		一般外来 小児心臓外来		一般外来	一般外来 血管外科外来
	午後					
整形外科	午前	一般外来 小児整形外科外来	一般外来 リウマチ 関節科外来		一般外来 肩・肘の外科外来 脊椎外来	
	午後	足の外科外来 腫瘍外来	第2・4側彎外来		手の外科外来	

科名	曜日	月	火	水	木	金
皮膚科	午前	一般外来 アレルギー・免疫 クリニック	一般外来 アレルギークリニック	一般外来	一般外来	一般外来
	午後	アトピー性皮膚炎外来		皮膚外科外来 皮膚腫瘍外来		
泌尿器科	午前	一般外来 神経因性膀胱外来 尿失禁外来	神経因性膀胱外来 尿失禁外来	一般外来 結石外来	腫瘍外来	一般外来
	午後	不妊・内分泌外来 性機能外来 前立腺外来 感染症外来			ウロストーマ外来	
眼科	午前		一般外来	予約外来	一般外来	
	午後	予約外来		緑内障遺伝子相談		予約外来
耳鼻咽喉科	午前	予約外来 予約検査(再来のみ)	一般外来 副鼻腔外来 嗅覚外来 小児難聴外来	一般外来 耳外来 神経耳科外来 顔面神経外来 頭頸部腫瘍外来	予約外来 予約検査(再来のみ)	一般外来 扁桃体外来 めまい外来 唾液腺外来
	午後			アレルギー外来		
形成外科	午前			リンパ浮腫 顔面神経麻痺 難治性潰瘍 頭頸部再建		一般外来
放射線科	午前	放射線治療・放射線灰断(一般・消化管・核医学・超音波・CT・MRIなど)外来は毎日				
	午後					
	午前	IVR 外来	血管造影・IVR	血管造影・IVR	IVR 外来	血管造影・IVR 乳房撮影 骨塩定量
	午後	血管造影・IVR	乳房撮影		血管造影・IVR	
産科婦人科	午前	一般外来 再来・妊婦健診 不妊・内分泌	一般外来 再来・嚙追求 習慣性流産	妊婦健診	一般外来 再来・嚙追求 習慣性流産 更年期・骨粗鬆症 排尿障害	再来・妊婦健診 不妊・内分泌
麻酔科蘇生科	午前	疼痛外来・術前検診	疼痛外来・術前検診	疼痛外来・術前検診	疼痛外来・術前検診	疼痛外来・術前検診
		高気圧治療については予約をとった後、高気圧治療で実施				
脳神経外科	午前	一般外来	予約外来	一般外来	予約外来	一般外来
神経内科	午前	新来患者のみ	一般外来		一般外来	新来患者のみ
	午後		変性疾患外来 パーキンソン病外来 免疫外来・脳卒中外来		痴呆外来 脳卒中外来	
小児神経科	午前	小児てんかん 脳波・誘発反応	小児てんかん 母子・遺伝相談	小児てんかん 脳波	小児てんかん 脳波・誘発反応	小児てんかん 発達健診
	午後	脳波・誘発反応	脳波・誘発反応	学習・行動障害	行動異常・自閉症	脳波・誘発反応